



牧野 浩志

日本の最先端ITS技術を世界の交通・都市・環境問題解決のためにどのように使えるのか、その展開の方向について議論する

# ITSの国際展開に関する特別研究会

## RC-72

### 1. 代表幹事

牧野浩志	(東京大学 生産技術研究所 准教授)
上條俊介	(東京大学 生産技術研究所 准教授)
中野公彦	(東京大学 生産技術研究所 准教授)
田中伸治	(東京大学 生産技術研究所 講師)
平沢隆之	(東京大学 生産技術研究所 助教)

### 幹事

須田義大	(東京大学 生産技術研究所 教授)
池内克史	(東京大学 大学院情報学環 教授)
桑原雅夫	(東京大学 生産技術研究所 兼任教授)
田中敏久	(東京大学 生産技術研究所 客員教授)
鈴木高宏	(東京大学 生産技術研究所 客員准教授)

### 連絡先

宮園あき子 (先進モビリティ研究センター)  
 Tel : 03-5452-6565  
 Fax : 03-5452-6800  
 e-mail : its-sec@its.iis.u-tokyo.ac.jp  
 HP : <http://www.its.iis.u-tokyo.ac.jp/>

## 2. 主旨

ITS (Intelligent Transport Systems) とは、最先端の情報通信技術等を用いて人と道路とクルマとを一体のシステムとして構築し、これまで解決が困難であった様々な社会的課題を解決し、社会や生活の変革に貢献していくものである。

日本のITSは、カーナビゲーションシステムやVICS、ETCの普及により、一時的な空間への集中による渋滞の解消や環境負荷の軽減等の社会的効果が現れてきており、世界で最先端を走っている。日本では、カーナビやETCの販売台数は年間400万台を超え、新しいモバイル三種の神器ともいえる電化製品の主要なマーケットを形成し、経済効果も非常に大きくなっている。また、公共交通機関に関しても、バスロケーションシステムが進化し、走行場所を特定することで、バスの到着時間予測、デマンドバスなど、バス利用者の不満解決への取り組みが始まっている。

一方、世界に眼を向けると、開発中の国々では日本の高度成長期と同じような、渋滞、事故、環境問題といった交通に起因する課題に苦しんでおり、日本のITSの導入に非常に関心が高い。

東南アジア諸国、中国、インド、アフリカ諸国などの都市・交通問題を理解し、適切な日本のITS技術を移転することは、各国の経済発展を支援することのみならず、地球規模での環境問題の解決にもつながるものである。

日本のITSの現状や将来動向も踏まえ、諸外国の都市・交通問題を解決するための日本のITSの活用方法について検討をしていく。

## 3. その他

期 間：平成22年4月～平成23年3月

参 加 費：賛助員の場合 (賛助会費一口10万円) : 参加費10万円  
 非賛助員の場合 : 参加費20万円

定 員：特になし

運 営 方 法：年6回、1回2時間程度の研究会を開催



### 最先端の日本のITSの全体構成図

収集基盤	各種路上センサ(気象・災害・交通量)、カメラ
通信基盤	光ファイバネットワーク、DSRC、携帯電話等移動体通信網
地図基盤	デジタル道路地図
データ基盤	データ定義およびデータ蓄積装置
車載器	マルチアプリ対応車載機
提供基盤	各種路上提供装置(情報板・路側放送)、VICS、インターネット